



## 主体的に取り組む

校長 伊勢 明子

予測困難な社会の変化（コロナ禍もそのものでした。）に主体的に関わり、感性を豊かに働かせながら、どのような未来を創っていくのか、どのように社会や人生をよりよいものにしていくかという目的を自ら考え、自らの可能性を發揮し、よりよい社会の創り手となる力、つまり「生きる力」を身に付けることが学習指導要領の趣旨です。育成を目指す資質・能力はア「何を理解しているか、何ができるか」（生きて働く「知識・技能」の習得）イ「理解していること・できることをどう使うか（未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成）」ウ「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びを人生や社会に活かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養）の3つの柱に整理されます。まさにこれからの時代に求められる（現代の企業社会にも必要ですね。）これらの資質・能力です。その中でも、生涯にわたって能動的に学び続けることができるようになるためには、例えるなら生命を維持する血流の役割といえる「主体的に取り組む態度」の育成が重要と言えます。体の隅々まで酸素や栄養を運び、全てを活力あるものとする源となる態度です。学校生活だけでなく、様々な領域や分野で輝きを放つ子供たちは、全て「主体的に取り組んだ、取り組んでいる」姿です。様々な

世界で夢を実現した人々、一流になる人々は、小さい頃から「主体的に取り組む態度」を身に付けてきた人たちと言ってよいでしょう。例えば、MLBで大活躍している大谷翔平選手がその典型的な人物だと言えます。

「主体的に」取り組むための大事な要素は、何でしょうか。それは、一つに「自分で決めること」そして「決めたことには、うまくいってもいなくても、自分で責任をとること」です。「責任をとる」というのは、難しいことのようにですが、うまくいかない時にどうしたらいいか考えさせ最善の手を打つことが「責任をとる」ということです。大人が何かお膳立てしても、また、うまくいかない時に環境や人のせいにしては、自分事にならず、全力を注ぎこんだり、深く考えたりしないでしょ。いわば、大人側の覚悟の問題になると思います。

本校では、校内研究において「自ら課題を発見し、解決できるように自分で学習を調整できる児童の育成」に取り組んでいます。学習活動全般を通して「主体的に学習に取り組む」児童を育てていきたいと考えます。

### 11月の生活目標「友達を大切に ものも大切に」

生活指導部

2学期も後半になりました。朝や夜は冬のような寒さを感じられるようになってきました。11月は寒暖差が激しくなり、人がイライラしやすい時期と言われています。友達関係が上手くいかなかったり、嫌なことをされたりすると、ついカッと言い過ぎてしまうことがあります。今月の生活目標である「友達を大切に」ができるように、言葉の指導などを重点的に行っていききたいと思います。

子どもの言動は、教室環境ともリンクします。床に鉛筆や消しゴムが落ちていたり、子ども達も落ち着きがなくなってしまう。そうならないためにも、身の回りの整理整頓を改めて指導していきます。また、落し物が持ち主の元に戻るように、もう一度子供たちの持ち物への記名をよろしくお願ひします。